

公衆の元祖は4千年前  
後藤新平(7)

作家 童門冬二

## 生き方の教本「大学」

後藤新平の性格そのままに、話がアッチへとびこっちへとびしたので、整理させていただきます。

要は後藤新平は、

「日本における行政広報の創始者」

であり、それを国民には「広報」という方法でおこない、内部職員には「研修」という方法でおこなった創始者だということです。が両方共その趣旨がどこまで理解されたかわかりません。“フーテンの寅さん”ではありませんが、まさに

「コミュニケーションでムズカシイなあ」であります。

現在首相が何かをなさる時に必ず「やさしく、丁寧に説明する」というコメントはよく理解できます。率直に言って首相のコメントも行政広報の一環なのですが、国民の方が馴れていないのです。と同時に国の方もこの面への体勢が完全ではないのかも知れません。

さてこのコーナーをお借りして私が書きたかったことを整理します。

出典は古代中国の古典「大学」です。

人間の生き方の基本を示す1740字の短い文章の本です。

## 「大学」は民主主義の基本

個人からはじまり、家庭・地方・国家と規模を

大きくして行く本です。修身・齐家・治国・平天下と発展していきます。

戦争が終ってすぐアメリカの占領軍が、

「非民主的だ」

とって公立学校から排除された「教育勅語」の出典です。

勅語だったためにそういう扱いをうけたのでしょうが、私は各段階に“自治”の達成を付けて読み直しています。

・修身 個人の自治の達成 個人の努力

齐家 家庭の自治の達成 家長の努力

治国 地域の自治の達成 地方の努力

平天下 国家の自治（独立・平和なとなみ）

ということです。

「非民主的」なところなどひとつもありません。むしろアメリカ民主主義そのものです。

## 新平の東京アップ

後藤新平は大正の大震災後東京の復興のために復興院をつくり、自ら総裁になりました。内閣総力あげての結集です。この時かれは「東京を復興するのではない。創造するのだ」と宣言しました。

たとえば隅田川に橋を架けるにしても、

「橋は渡るだけではない。観るに値するものだ」

とって最高のデザインを画家に頼みました。

そうなる観る側の東京市民の水準が問題です。

ここで“大衆”と“公衆”の問題が持ち上がって

きます。後者は、

「新しい東京は創造によって水準を高める。当然  
済住む市民の質を高めなければならない」

と考えます。

“PR”の問題が出てくるのです。“パブリック・  
リレーションズ（公衆関係）”です。訳してもイ  
ミはわかりません。

しかし私はやっと、

「公衆を公衆の状態でおけるように環境をつねに  
整備しておくこと」

だな、と思うようになりました。

先年の東京オリンピックの直前に、木を大切に  
する建築家が自作の都市施設を提供しました。そ  
の時のコメントが、

「公衆施設を提供する」です。大衆施設ではあり  
ません。

そういえば東京都内には、大衆電話も大衆トイ  
レもありません。すべて“公衆”の名がついてい  
ます。設置した人が考えているのです。区分は、  
「この選挙は不正だ。糺<sup>ただ</sup>そう」という煽動された  
かどうかはわかりませんが、石を投げて窓を割り、  
そこからナダレこむ暴徒を“大衆”と呼ぶならば、  
「そんなことはよせ、しずかに話しあおう」

と、良識をもって対応するのが“公衆”でしょ  
う。

ところで“公衆”“公衆”って云ってますが、  
“原型”はどこかにあるのでしょうか？むずかし  
い探索です。

が、「これじゃないかな？」という存在を発見  
しました。

その存在はやはり「大学」です。

## 公衆の原点

「大学」の中に“新<sup>しん</sup>（親）民<sup>みん</sup>”という言葉があ

ります。漢学者たちの解釈によると、

- ・自分を改められる人
- ・自分を生れ変られることのできる人  
などと説明しています。

最近は、

- ・新しい時代を生きぬける人

という解釈がありました。この解釈がいちばん  
アップ・トゥ・デート（今日的）だと思います。  
現在は、

- ・「デジタル社会」であり
- ・「人工頭脳・AI と共生の時代」

だといわれます。

さらに、人間の喜怒哀楽の感情を AI に持たせ  
る時代だともいわれています。

そうすると、デジタル族の中でも、  
「イヤなことは全部 AI にやらせて、ワレワレ  
（人間）は好きなことだけやればいい」  
といい出す人間も出てきます。

不屈きな発言で、これでは“共生”できません。  
共生とはよろこびもかなしみも共にして、困<sup>こま</sup>った  
時に肩を寄せて、

「どうしようか？」

と相談しあうことでしょう。

唄<sup>うた</sup>の文句ではありませんが、

〽泣いた日もある 恨んだことも

を共有することだと思います。

ところでスラッと「新民」のことを書きました  
が、お気づきでしょうか。“新民”のことを書い  
ている「大学」という本は4000年前の本でありま  
す。それが、

「新しい時代を生きていける人」

なんてとてもナウいですね。大体「大学」とい  
う本が孔子の言葉のエキスを集めた物だといいま  
すから凄<sup>すご</sup>いと思います。